

平成30年度、令和元年度 山三留守家庭児童育成室の検証結果について

令和3年6月

吹田市教育委員会

地域教育部 放課後子ども育成室

吹田市立山三留守家庭児童育成室「すずめ学級」（以下「山三育成室」とする。）については、平成28年4月から社会福祉法人光聖会（蓮美幼児学園千里丘キンダースクールを運営）に業務委託している。当初は平成31年3月までの3年間の委託契約で、委託業務の実施状況を評価する附属機関での審議において、事業者による事業運営が良好であるとの結果を得て、引き続き平成31年4月から令和6年3月までの5年間の委託契約を締結している。なお、当該社会福祉法人については、吹田市立千里丘北留守家庭児童育成室運営業務も受託しており、市内で2育成室を受託している。

児童福祉法において、事業に必要な水準を確保するため、市町村による事業者への調査や命令等が定められており、運營業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下「育成室」とする。）の運営状況に関して、放課後子ども育成室による検証を行い報告するものである。

～検証方法～

- 1 放課後子ども育成室職員〔担当事務職員、スーパーバイザー〕による現地視察
- 2 保護者へのアンケート：委託初年度 年間3回、2年目以降 年間1～2回
- 3 事業者への聞き取り
- 4 チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

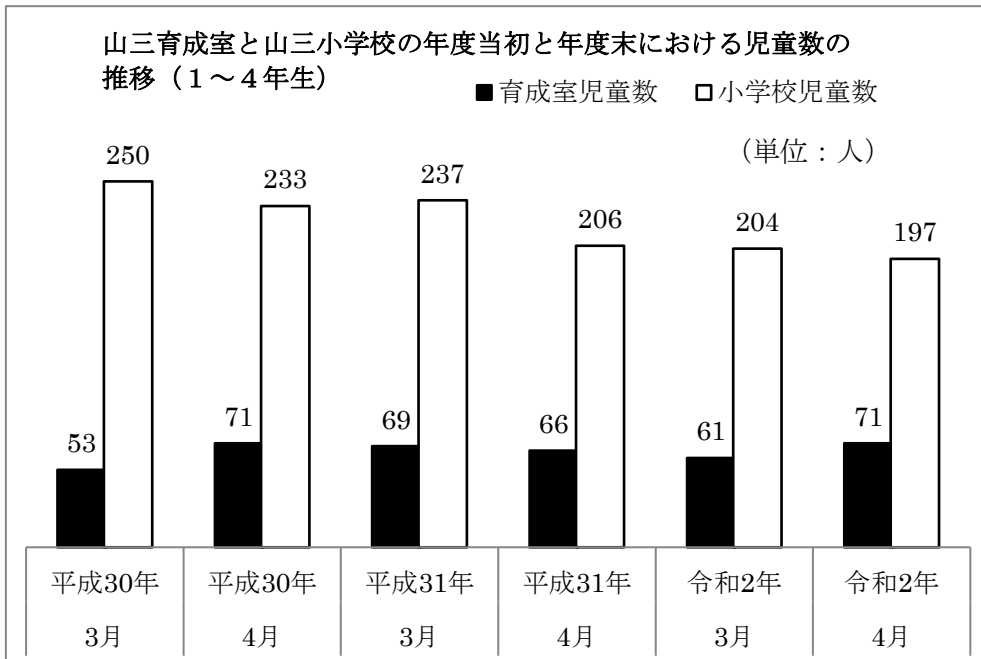
1 入室児童数について

山三育成室については、平成31年4月時点で66人在室（学年内訳、1年：18人、2年：16人、3年：22人、4年：10人）しており、うち配慮を要する児童（障がい有児）が1名在籍している。2教室で運営しており、1室あたりの児童数は33人となっている。児童数の規模として、他の育成室と比べて少ない方である。

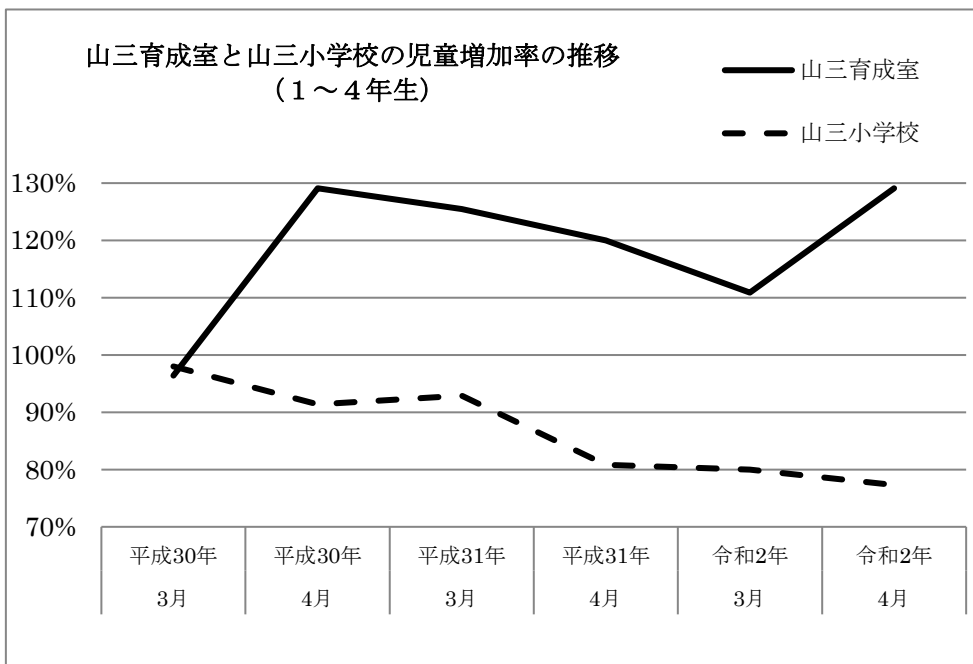
小学校の児童数は減少傾向となっている。入室児童数については、令和元年度は前年度比7%の減少となっているが、令和2年度は前年度比8%の増加となっている。

【表1・2】

【表 1】

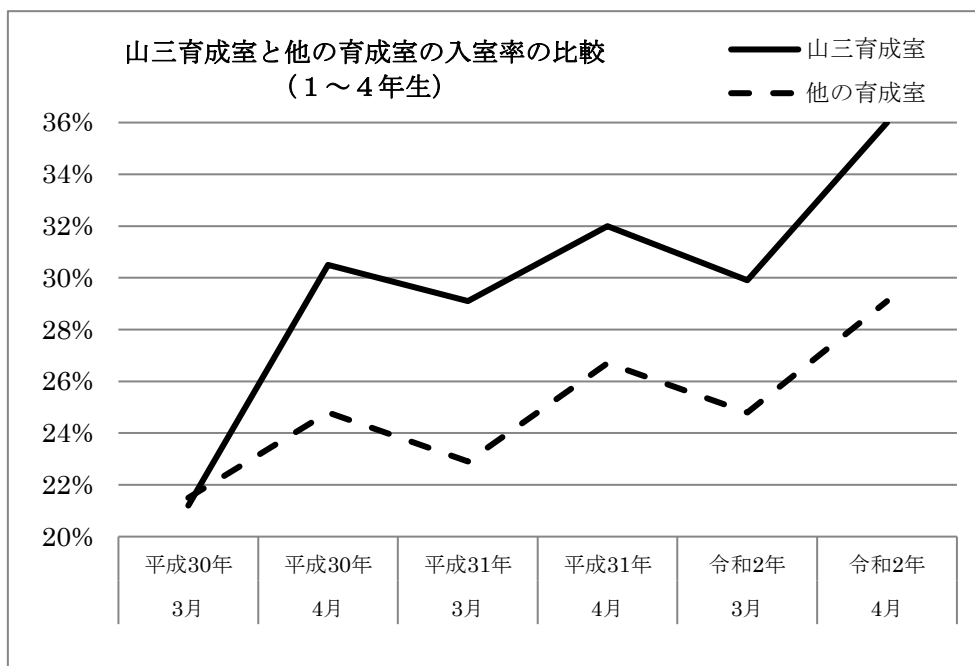


【表 2】



山三育成室の平成30年度から令和元年度までの入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）は【表3】のとおりとなっている。小学校児童数が減少しているものの、入室児童数がほぼ一定の人数で維持しているため、山三育成室の入室率は、全育成室平均入室率を上回る数値で推移している。

【表 3】



2 保育内容について

(1) 日常における保育の取組について

山三育成室の日常の保育の取組としては、仕様書に沿って行われており、児童の健全育成への貢献は十分であると認められる。理由としては以下を挙げることができる。

ア 児童の登室、帰室状況等の把握をしっかりとっている

ホワイトボードで出欠、延長利用等の管理を見える化しており、指導員間で情報共有をしている。一日保育時は朝の会で出欠確認を徹底しており、児童が帰室する際には、帰る準備を促すため5分前にアラームを鳴らすなど、登室管理をしっかりと行っている。

イ 学級だより等で児童の様子を保護者へ伝えている

学級だよりを毎月初めに発行しており、お知らせや来月の予定に加え、雷などの悪天候の際には帰宅が遅れてしまうことや、他市で起こったなりすまし電話の事例報告を行うことで保護者へ注意喚起するなど、安心感を持って保護者が山三育成室に児童を預けられるように配慮している。また、児童の様子を連絡帳で伝える以外に、当該委託事業者が管理するブログでイベントごとの様子を紹介しており、保護者への情報発信もしっかり行えている。

ウ 班活動や遊びを通じた児童の集団作りを行っている

育成室での当番活動やおやつの時間などでは、異年齢で構成した班での活動を行い、児童の個性を尊重しながら、協力して、各自の役割を果たすように促している。班構成は全学年が入るように考慮されており、当番は1週間交代でリーダー、

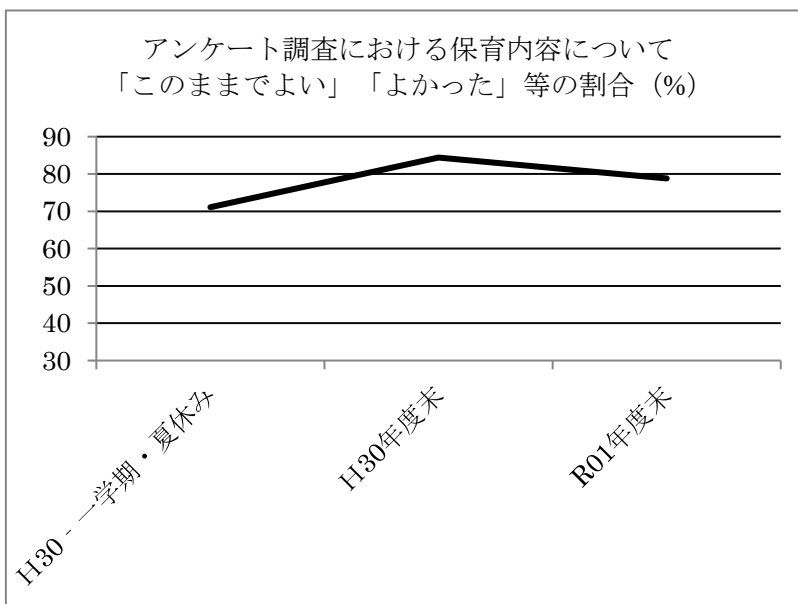
掃除を決めて行っている。また、外遊びなどの場面転換時には作業を中断して切り替える時間を持たせて、ルールなど確認の上で移動している。問題が起こった際は、指導員は児童両者の意見を聞き取っており、集団作りにおいて、無理強いすることなく、声掛けをしながら小集団、集団に近づけていくように働きかけている。

(2) 保育内容に対する保護者の意見について

保育内容に対する保護者の意見については、これまで行った3回のアンケートの調査結果から、回答があった過半数の保護者は「このままでよい」と回答をしており、平成30年度一学期・夏休みのアンケートから1年間にかけて約13%上昇しており、令和元年度末には約79%の保護者が「このままでよい」と回答している。保護者からの評価が高くなってきていることが読み取れる。

また、平成30年度一学期・夏休みのアンケートにおいて「イベント（クッキング保育、お誕生日会など）をもっと増やすべきである。（13.2%[5人]）」が、令和元年度末では6.3%[2人]と減少し、「もっと指導員が中心となり遊びを組み立てていくべきである。」や「社会のルールやマナー等の社会的な規範を高める活動をするべきである。」といった意見がなくなっており、改善の努力をしていることが感じ取れた。

【表4】



(3) イベント（季節ごとのイベントやお誕生日会等）について

クッキング保育は夏休み期間中に週1回程度、お誕生日会は基本的に毎月開催している。猛暑によって中止としたデイキャンプの代わりに、職業体験ができる遠足を実施し、お金を稼ぐことの大変さなど貴重な経験を通して、児童にとっても大変有意義なイベントとなった。また、例年秋に開催している「すずめ祭り」については、児童らがイベントを企画・運営し、太陽の広場（放課後子ども教室事業）に参加している小学校の児童を招待して一緒に楽しむイベントであるが、児童らの負担を軽減することを目的に、山三育成室に在籍している児童らがメインで遊ぶイベントに変更した。

さらに、従来一日だけの「すずめ祭り」を数日間開催し、できる限り全ての児童が一度は遊べるように工夫していた。このように、児童らにとって、より良い思い出、貴重な経験ができるように取り組んでいることが窺える。

また、各イベントの様子を当該委託事業者が管理するブログで紹介しており、保護者へ伝える工夫をしている。

(4) おやつを提供について

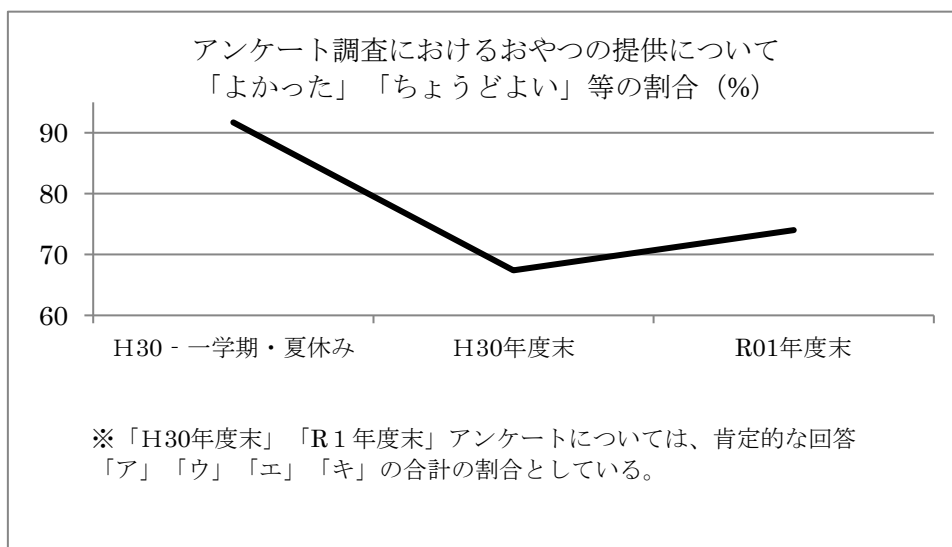
山三育成室においては、季節に合い、栄養バランスを考慮したおやつを3品選定することを基本としており、苦手なものは最初から減らし、おかわりは時間がある時にする。また、おかわりの際には夕食に影響がないかについても確認している。

持ち帰り用の個包装の準備や賞味期限の管理徹底、アレルギー品目を毎時チェックすることで万一の事故を防止している。

(5) おやつを提供に関する保護者の意見について

アンケートの回答では、【表5】のとおり、おやつに関して「よかった」や「ちょうどよい」等の肯定的な意見が、平成30年度一学期・夏休みのアンケートで90%以上と非常に高い評価を得ている。平成30年度末のアンケートから、回答の選択肢をより細分化し、従来の5択から12択にした（自由記述回答を含む）ことで、より詳細な意見が聞き取れるアンケートに変更したことも影響して減少はしているものの、令和元年度末で70%以上と高い評価を得ている。令和元年度末の回答結果を見ると、おやつに関する「量はちょうどよかった（20.0%[20人]）」に対し、「量は少なかった（4.0%[2人]）」、「量が多すぎた（2.0%[1人]）」という回答もあった。また自由記述欄では「納豆や小魚など身体のことを考えている」といった回答がある一方、「ふかし芋や果物、おにぎりなどの捕食となるようなものにしてほしい」という回答もあるので、栄養価や腹持ち等の補食の観点を踏まえて、より良い運用方法を継続して検討していただいたい。

【表5】



3 指導員について

(1) 指導員の配置について

山三育成室の指導員の配置については、2教室での運営であるため、教室に配置する指導員が4名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が1名必要であるため、1日当たり5名の指導員の配置が必要。1教室に常時2名ないし3名の指導員を配置しており、欠勤等が生じる場合も同委託事業者が運営する市内の保育所等から応援が入り、柔軟な配置対応ができる体制であり、きちんと配置できていた。また、児童の怪我対応など、同保育所に勤務する看護師に相談できる体制も構築している。なお、正規雇用の指導員は、午前中に同委託事業者が運営する保育所等で勤務を行っており、一般的なフルタイム勤務として雇用されている。

指導員間の連携について、職員連絡帳を作成して、欠席や連絡事項を記録している。また、口頭で伝えるべき内容は全員に共有することを徹底している。週1回の共有会議も実施しているため、主任指導員は育成室全体を常に把握しており、クラス担任への適切な指示ができていていると感じる。主任指導員を中心として解決を図る姿勢が見られ、放課後子ども育成室職員（担当事務職員、スーパーバイザー）とも積極的に連携や情報共有を図り、育成室の保育内容の充実・向上を図る努力を感じることができた。

(2) 指導員の児童との関わりについて

山三育成室は、登室時の挨拶を徹底しており、指導員たち自身が元気な挨拶を心掛けているようで、児童にとっても生活習慣の一つとして身につく手本となっていることが見て取れる。児童とのコミュニケーションも積極的に図っており、指導員と児童との信頼関係がしっかりと構築されているため、山三育成室は賑やかに声が交じり合い、楽しい雰囲気を持った育成室となっている。

(3) 指導員に関する保護者からの意見について

令和元年度年間を通じてのアンケートにおいて、指導員についての設問がある。この設問は複数回答可としており、指導員に対して保護者がどのような考えを持っているかを聞く設問となっている。【表6】

回答が多かった順に上位3つを挙げると以下のとおりになっている。

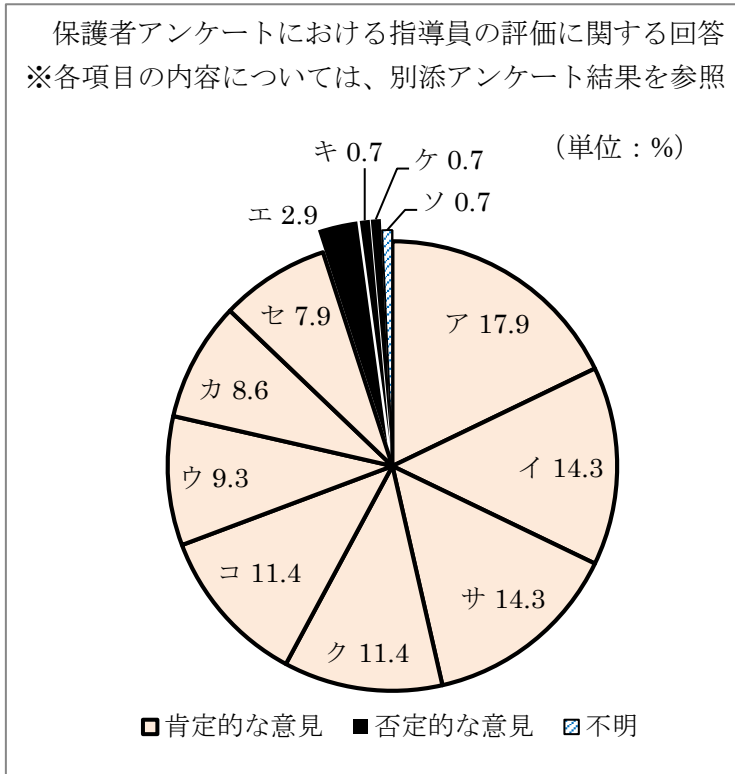
- 1位 「児童の相談に乗り、児童の気持ちに寄り添うことができていた」
・・・17.9% [25人]
- 2位 「指導員は児童の輪に入り、積極的に児童と関わりを持っていた」
・・・14.3% [20人]
- 2位 「児童のことを丁寧に見ている印象があり、安心感を持つことができた」
・・・14.3% [20人]

上位の3つの回答で全体の約47%を占めており、さらに指導員に対して肯定的な意見をすべて含めると、全体の約95%と高い評価となっている。また、平成30年度のアン

ケートでも肯定的な意見は約 95%と同様に高い評価であったことから、継続して高い評価を維持していることが分かる。

今後も高い評価を維持できるよう努めるとともに、少数意見ではあるものの、「一生懸命業務に取り組んでいないように感じた」などという意見があるので、更に高い評価が得られるように期待したい。

【表 6】



4 総合的な評価について

(1) 放課後子ども育成室による評価について

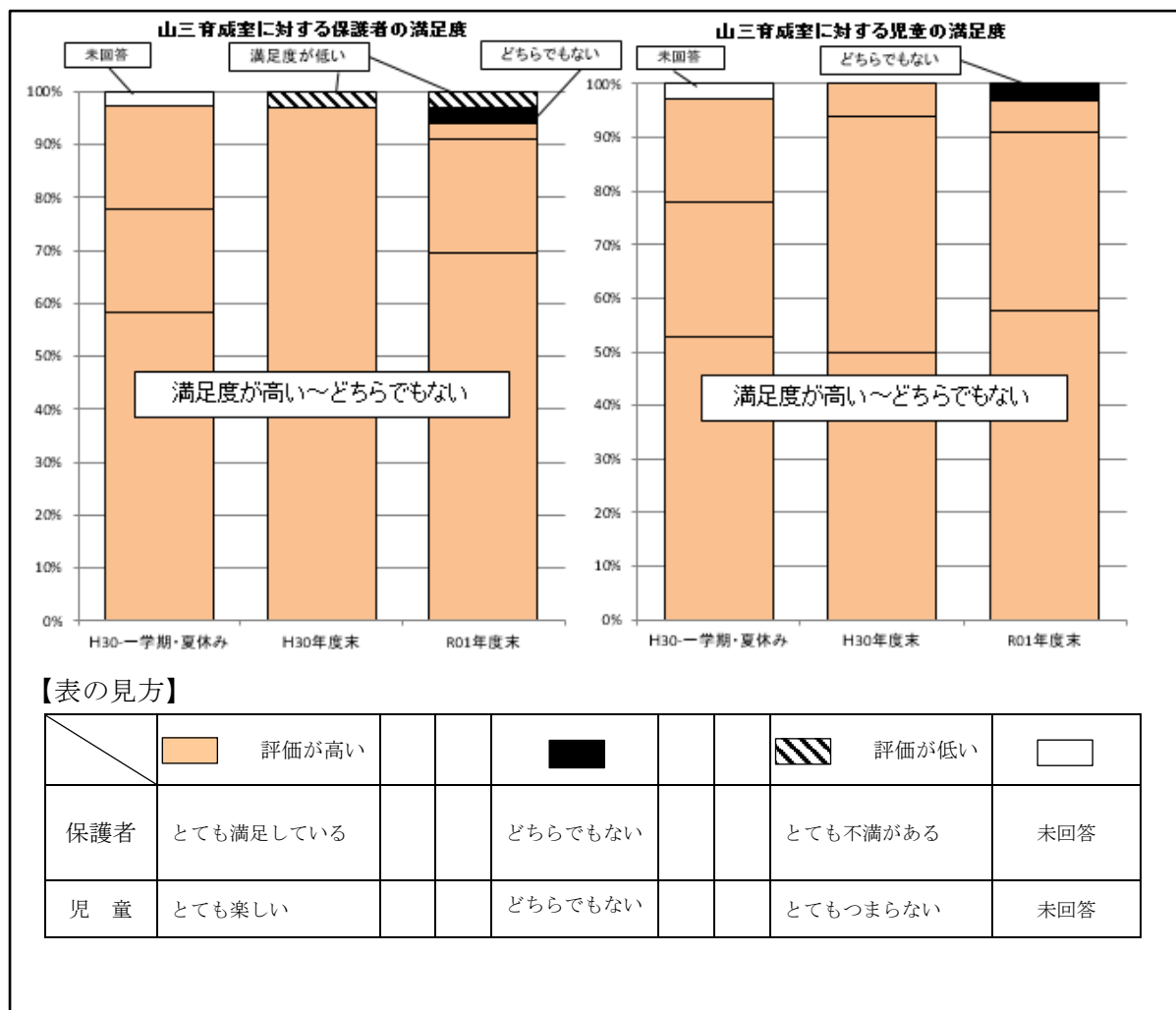
放課後子ども育成室職員(担当事務職員、スーパーバイザー)による現地視察及び事業者への聴き取りによる検証による総合的な評価として、山三育成室の運営については、以下の理由により高く評価することができる。

- 1 育成室では、入室児童が笑顔で楽しく活発に過ごしている。
- 2 指導員が常に子ども達とコミュニケーションをとっている。
- 3 連絡事項については、主任指導員、委託事業者、放課後子ども育成室の間で共有が図られており、組織だった運営が行われている。
- 4 育成室の運営では、直営育成室の取り組みの内容をベースに組み立てられており、新たな取り組みは児童主体で話し合い決めていく姿勢が見られる。
- 5 保護者との連携として、学期ごとに学級懇談会を開催しており、「すずめふれあいクラブ」という親子参加型プログラムを行っている。ゲームを通して、親子のふれあい、保護者同士の親睦、指導員と保護者との関係づくりを図っている。

(2) 保護者へのアンケートにおける総合的な評価について

これまでの保護者へのアンケートには、「子ども達にとって山三育成室はどの程度楽しい場所か?」を聞く設問と、「保護者にとって山三育成室はどの程度満足できるものとなっているか?」を聞く設問を設けている。【表 7】その結果から見える、事業者の運営状況の総合的な評価としては、「保護者や児童からも、非常に高い評価を受けている」と言える。

【表 7】



5 終わりに

これまでの放課後子ども育成室の職員による視察や保護者へのアンケート等によるいろいろな検証、その他小学校をはじめとする関係機関との日々の連携による状況把握の結果、現在の委託事業者は、平成30年度から令和元年度にかけて良好な保育や育成室運営が行われていることが確認できた。

アンケートの自由記述欄においても、「めちゃめちゃ楽しい場所」「他学年の友達もでき楽しんでいた」等、子ども達が育成室を楽しんでいる様子が書かれた記述を多く見ることができ、また、「安心して子どもを預けられる」「どんなことでも相談にのってもらえた。心強く感じ、とても信頼できた。」等、保護者が満足している内容の感想が書かれた記述

も多く見ることができる。子ども達と保護者にとって、現在の育成室は「安心できる、楽しい場所である」との認識が広がっている。

現在の委託事業者には、今後とも現在の方針を継続し、保護者、学校、放課後子ども育成室としっかり連携を密にした運営を行い、同時に、普段から子ども達と保護者の声に耳を傾けて、改善が必要などころはないかを丁寧に検証しながら、更なる向上を目指してもらいたい。